

# 山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi  
Veterinary Medical Association

第 735 号 令和 4 年 8 月

## 日本獣医師会第79回通常総会

### — 出席報告 —

会長理事 田中尚秋

梅雨に入っているのに雨がなかなか降らず、水不足、電力不足が懸念される状況ではありましたが、去る令和4年6月22日(水)、明治記念館(東京都港区元赤坂)において公益社団法人日本獣医師会の第79回通常総会が開催され出席しましたので、その状況を報告いたします。

このところ新型コロナウイルスの新規感染者数が落ちてきてきたこともあり、今回は、議決権行使者(自分が地区理事の立場であることから本会の議決権行使者として白永副会長出席)はもとより来賓等の招待も3年ぶりに復活し、活気のある総会となりました。

詳細については、日本獣医師会雑誌に掲載されると思いますので、ここでは概略の説明とさせていただきます。

まず始めに出席者全員による日本獣医師会・獣医師倫理綱領「獣医師の誓い—95年宣言」の斉唱のあと、藏内勇夫会長から平素の協力に対する謝意、コロナ渦での取組状況、来賓ご出席に対する謝辞等を述べられた後、次のとおり①愛玩動物看護師法の施行による今後の取組み等、②改正動物愛護管理法に基づくマイクロチップの登録義務化の件(ワンストップサービスとはかけ離れたものとなってしまったが、今後行政機関等とも協議を進め改善を図っていく所存であること)、③今後のワンヘルスの推進:先日(国会)で、自見はなこ参議院議員の質問に応え岸田文雄首相もワンヘルスの重要性に言及、閉会后、感染症危機管理庁の創設を表明されたこと、今秋開催する第21回アジア獣医

師会連合(FAVA)大会はアジアからのワンヘルスアプローチを標榜しており記念すべき大会であり、ワンヘルスを世界に広く発信するいい機会であること、等に係る挨拶がありました。

続いて、獣医師会職員永年勤続表彰(30年勤続表彰1名、20年勤続表彰2名)があり、代表として30年勤続表彰の寺田淑子様(滋賀県獣医師会)へ藏内会長から賞状の授与等がありました。

次に来賓のご挨拶があり、自由民主党獣医師連盟会長の麻生太郎衆議院議員のメッセージが森英介幹事長から代読されました。他に今回ご祝辞を賜ったのは、公明党獣医師・動物看護師問題議員懇話会会長古屋範子衆議院議員、金子原二郎農林水産大臣(小川良介農水相消費・安全局長代読)、山口 壯環境大臣(奥田直久環境省自然環境局長代読)、後藤茂之厚生労働大臣(武井貞治厚労省大臣官房審議官代読)、末松信介文部科学大臣(里見朋香文科省大臣官房審議官代読)、(公社)日本医師会:中川俊男会長であり、総会に華を添えていただきました。

来賓ご退席のあと議案審議に入りました。藏内会長が仮議長となり、選任は「仮議長一任」の声を受け、議長として(公社)香川県獣医師会の篠原公七会長、副議長として(公社)岡山県獣医師会の春名章宏会長が指名され、両議長から簡潔に就任の挨拶があり、第1号議案から審議が開始されました(議長から事務局あて説明が求められ、すべて主として境副会長兼専務理事が対応)。

## お知らせ

### 第50回中国地区獣医師大会・令和4年度獣医学術中国地区学会開催案内

中国地区各県獣医師会が輪番制で開催する標記大会・学会について、本会の主催により、下記のとおり開催することとして準備を進めています。多くの会員の皆様に参加していただきますよう、ご案内申し上げます。

○開催期日:令和4年9月3日(土)~4日(日)

大会・学会の日程は、巻末のプログラムをご覧ください。

○開催場所:山口グランドホテル(山口市小郡黄金町 TEL 083-972-7777)

○その他:  
・参加される方は、本会ホームページに掲載している「健康チェックシート」に必要事項を記入して、当日、会場受付に提出してください  
・講演要旨集は、当日、会場受付でお渡しします  
・本会会員の参加費は無料です

**第1号議案：令和3年度事業報告の件（報告事項）**

- ・会員及び賛助会員の異動状況（構成獣医師数が対前年度比で344人減少）
- ・獣医学術地区学会について、新たな「学会運営規程」を設けた（一部改正）こと
- ・新型コロナウイルス感染症への対応について時系列にまとめたこと
- ・豚熱への対応（ワクチン接種支援可能獣医師リストを作成）等
- ・各種機関・団体等への要請活動内容等掲載
- ・個別事業報告（部会委員会等の運営事業について、地区獣医師大会における決議要望事項及びそれに対する対応について、等）
- ・狂犬病予防法による登録を受けた犬に係る取扱いについて通知
- ・動物個体識別登録システム(AIPO)への登録数（令和3年度335,250件、累計登録数2,862,125件）等紹介
- ・令和4年11月に開催予定の第21回FAVA大会において蔵内会長のFAVA会長就任が決定していること、東京と福岡に大会準備室が設けられ、開催に向けた準備が進められていること、等
- ・年次大会、各地区学会の開催状況、講習会・研修会の実施状況等
- ・「認定・専門獣医師」認定等に係る協議が進んでいること
- ・その他、収益事業関係共済事業の運営状況等  
以上の説明に対し、議長が質疑、意見等を求めたが特に異議等なし

**第2号議案 令和3年度決算の件（承認事項）**

計算書類（貸借対照表、同内訳表、正味財産増減計算書等）により決算状況説明、当年度は法人会計等準備資金等を取崩し対応

柴山隆史監事が監査報告

議長が質疑、意見等を求めたが特になし。挙手により全会一致で承認された。

**第3号議案 令和4年度事業計画の件（報告事項）**

新型コロナウイルス感染症をはじめ、動物由来の人と動物の共通感染症対策は、人の健康、動物の健康、野生動物を含む環境の保全に関する関係者が一体となり連携して対応する必要があるというワンヘルスアプローチの概念の重要性を改めて認識することとなった。事業推進特別委員会による検討として①ワンヘルス推進、②薬剤耐性（AMR）対策、③マイクロチップ（MC）普及対策を掲げている。AMR対策推進検討委員会では、政府が策定・公表する予定の新たなAMR対策行動計画に基づく普及啓発、モニタリング調査等への協力を行う予定である。

**個別重要課題に対する事業運営**

- ・ワンヘルスの推進に関する対応としては、日本医師会との連携シンポジウム等を開催し、また、第21回FAVA大会を成功させ、FAVA常設委員会の検討内容を見据えて国内外にワンヘルス実践を波及する
- ・AMR対策の推進に関する対応としては、具体的なAMR対策について獣医師、医師、動物用医薬品業界等と連携して、医薬品承認制度の在り方、EUの

新たな動物用医薬品規制への対応等について検討を行う。また、「AMR対策アクションプラン」への効果的な対応に向けた施策を推進する。さらに、FAVA常設委員会の検討を積極的にリードし、アジアにおけるAMR対策を推進する

- ・MCの普及啓発に関する対応としては、社会へのMC装着・登録に関する普及啓発を行う。ワンストップサービスの実現を目指しているが、まだ機能しておらず、混乱が生じている。抜本的な改革が必要であることから、改善に向けて努力していく
- ・獣医療提供体制の整備に関する対応としては、獣医師の専門性を認定等する仕組の構築等を検討・実行する。資格（案）「農場管理獣医師」「災害医療（VMAT）認定獣医師（仮称）」、検討案「動物取扱業管理認定・専門獣医師（仮称）」「地域獣医療認定・専門獣医師（仮称）」；いわゆるかかりつけ獣医師等

その他、豚熱等への対応、新型コロナウイルス感染症への対応、勤務獣医師の処遇と職場環境の改善及び女性獣医師の活躍推進に関する対応、緊急災害時動物救護活動への対応、獣医学教育環境の国際水準への整備充実に関する対応について紹介

- ・国際交流事業の進行に関する対応については、獣医学術に関する国際交流の推進のため、世界獣医師会(WVA)及びアジア獣医師会連合(FAVA)等、関係機関の活動に積極的に参加する。東アジア三カ国（日本・韓国・台湾）における獣医学術交流については、大韓獣医師会、台湾獣医師会と連携して合同シンポジウムの開催、WVA、FAVAへの働きかけを積極的に推進する、等

- ・組織の強化に関する対応については、会員獣医師が減少していることに鑑み新規若手獣医師の入会に努める

以上の説明に対し、議長が質疑、意見等を求めたが特に異議等なし

**第4号議案 令和4年度予算の件（報告事項）**

MC登録関係費用、AIPO（動物ID普及推進会議）に係る費用が全く不透明。法定登録MCで約1億1千万円程度の赤字を見込んでいる。

議長が質疑、意見等を求めたところ、MC登録に係る不備等と、AIPOに係る紙ベースでの申請復活を望む意見が出され、登録内容については今後協議検討していく旨、紙ベース申請については、理事会において理事からも復活を望む意見が多数出されたので、そうした旨回答があった。

その他、議長が質疑、意見等を求めたが特に異議等なし

**第5号議案 令和4年度 会費及び賛助会費の件（承認事項）**

例年どおり（変更なし）。

議長が質疑、意見等を求めたが特になし。挙手により全会一致で承認された。

議長がほかに提議等ないか求めたが、特になかったため議事終了とされた。

以上、本年度も交流会はありませんでしたが、通常総会は盛会裏に終了しました。

## 令和4年度中国地区獣医師会連合会臨時総会開催報告

常務理事 酒 井 理

中国地区の各県獣医師会が輪番で事務を担当している中国地区獣医師会連合会は、今年度、本会が事務局となっています。

令和4年7月7日(木)、山口グランドホテルにおいて開催した中国地区獣医師会連合会臨時総会は、多数の新型コロナウイルス感染者が発表された島根県獣医師会役員が急遽欠席となり4県での会議となりました。会議の概要は次のとおりです。

まず、中国地区獣医師会連合会の田中尚秋会長から

- ・平素から中国地区各県の協力への感謝の言葉
- ・新型コロナウイルス感染者の急増について、今後の動向をしっかり見極めたいこと
- ・中国地区獣医師大会・学会の際の歓迎交流会を行わないこととしたこと

等の挨拶の後、次の議案について協議しました。

### 第1号議案 日本獣医師会会長表彰及び中国地区獣医師会連合会会長表彰について

各県から推薦のあった「日本獣医師会会長表彰候補」及び「中国地区獣医師会連合会会長表彰候補」についてすべて了承され、「日本獣医師会会長表彰候補」につ

いては、日本獣医師会に推薦を依頼し、「中国地区獣医師会連合会会長表彰候補」については、9月に本県で開催する中国地区獣医師大会での表彰が決定された。

### 第2号議案 令和4年度要望事項について

中国地区各県から提出された5件の要望事項については、原案どおり中国地区獣医師大会における議案とすることとなった。

### 第3号議案 第50回中国地区獣医師大会について

第4号議案 令和4年度獣医学術中国地区学会について  
中国地区獣医師大会及び獣医学術中国地区学会の開催計画について、了承された。

### 第5号議案 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”について

日本獣医師会から、2年間中止した動物感謝デーを今年度は開催する予定であるが、地区獣医師会の積極的な参画を求めないと説明があったことから、中国地区獣医師会からは、出展しないこととなった。

### その他

災害時の被災動物の救護体制について鳥取県から照会があり、各県の取組み状況について情報交換した。

## 産業動物部会・獣医公衆衛生部会合同委員会開催報告

常務理事 酒 井 理

令和4年6月28日(火)、県獣医師会館2階会議室において、産業動物部会と獣医公衆衛生部会の合同委員会が開催されました。

今回の合同委員会は、委員の任期満了に伴い、新たに任命された委員(任期:令和4年6月1日~令和6年5月31日)による初めての会合で、部会長の選任や今年度の事業計画等について協議しました。

委員の互選により、産業動物部会会長は、山口支部の大石委員、獣医公衆衛生部会は、県庁支部の殿河内委

員が選任されました。

また、本会会員の獣医学術・獣医療技術の向上普及、人材育成をめざして、両部会とも、年度の後半に、それぞれ1回ずつ講習会を開催することになりました。

講習会の詳細な計画が決まり次第、本会会報に開催案内を掲載します。

今年度は、次の委員で部会の運営を行いますので、よろしくお願いいたします。

### 講習会開催計画(案)

区分	開催期日	講師
産業動物部会	令和4年11月5日(土)	ささえあ製薬 加藤敏秀先生
獣医公衆衛生部会	令和4年12月11日(日)	麻布大学獣医学部 菊水健史先生

### 部会委員名簿

#### 〈産業動物部会〉

氏名	所属	支部
◎ 大石 大樹	山口農林水産事務所畜産部	山口
柿原 新	柳井農林水産事務所畜産部	岩柳
谷口 雅康	山口大学共同獣医学部	山大
田村 英則	東部地区家畜診療所	岩柳
直井 秀明	下関農林事務所畜産部	豊浦
原田 恒	下関農林事務所畜産部	豊浦

#### 〈獣医公衆衛生部会〉

氏名	所属	支部
坂本 聡	廃棄物・リサイクル対策課	県庁
◎ 殿河内英雄	山口県生活衛生課	県庁
古川 勝也	岩国健康福祉センター	岩柳
柳谷 泰夫	長門健康福祉センター	長北
山縣 宏	防府看護専門学校	山口
度会 雅久	山口大学共同獣医学部	山大

50音順 ◎は部会長

## リレー随筆

豊浦支部 柳 澤 郁 成

(下関農林事務所畜産部)

大学の先輩である阪田先生からバトンを託されました。先輩がこれまでの経験をもとに論理的に立証し、臨床現場に生かされていることに感服するばかりです。はつらつと第二の人生を謳歌されているお姿に、自分もそのような将来を思い描けるのか、自分はどれだけ獣医師として努力をしてきたのか？と自問する次第です。

### 【徒然なるままに...】

パソコンを目の前にして、とりあえずは肩に力を入れずに徒然なるままにキーボードを打とうと思ったのですが、会報がウェブ公開され、会員以外の誰にでも読まれることを考えると、プライベートなこともなかなか書きにくいなど考えてしまいました。

ともあれ、無難に近況報告をすることにしました。いつまでたっても知識も技術も経験も未熟で獣医師として自信の欠片もない自分が、年齢的にとうとう管理職なるものになってしまいました。年功序列？エスカレーター式？になってしまったとはいえ、十数人の職員を束ねていく重責に、苦闘する日々を送っています。ヒラ職員のときは、がむしゃらに仕事に向き合い、成果を県獣医学会や家畜保健衛生業績発表会で発表するなど、それなりに充実した日々でしたが、管理職になると研究や発表をする機会もなく、退屈で少しストレスになっています。大学時代からウイルス一筋に研究し、県職員になってからも病性鑑定室のウイルス担当として15年近く携わってきたため、部屋にこもって仕事することに慣れてしまい、農家相手の仕事が不得手で、現場でのトラブルは上司からの助け舟でなんとか凌いできました（大きなトラブルの時には必ず優れた上司にめぐり合っており、本当に感謝しています）。こうした経験を踏まえ、部下の働きやすい環境を作ることが、今の自分に唯一できる管理職らしいことかなと思っています。

### 【ヤモリ？】

と言っても爬虫類ではなく「家を守る＝家守（ヤモリ）」です。年老いた両親と暮らすため、この度実家に戻ることになりました。実家には広大な庭があり、庭の手入れが趣味の両親が種からいろんな植物を育てた結果、林のように大木が連なる庭になってしまいました。ブナやカシ、センダンなど、成長の早い広葉樹の雑木が主体なので、枝を切っても切ってもすぐに伸びてしまいます。木の高さもどんどん高くなり、高さ5メートル、幹回りも1メートル近くあるものも！木に母屋を取られてはならないので、伐採しなければならぬのですが、高所作業のため枝を切るのも並大抵の苦労ではありません。ヘルメットと安全帯を装着し、ワイヤーロープを幹にくくりつけ、作業をしなければなりません。両親は気楽なもので、下からあれやこれやと命令ばかり（笑）。余りに危険な作業は高所作業車を扱うプロの植木屋に頼みました。次にやっかいなのが、伐採作業後に大量に出てくる枝や丸太の処分です。葉や小枝は焼却

場に軽トラックで搬入し、ある程度の太さの枝は適当な長さに切断、丸太は割って薪にします。薪は薪ストーブの燃料にして、冬の暖房に使っています。たき火の揺らめく炎を見つめると心が落ち着き、遠赤外線のような暖かさは体に優しく、薪で沸かしたお湯で淹れたコーヒーは体を芯から温めてくれます。春から夏にかけて汗をかいて用意した薪は3か月程度で使い切ってしまうのですが、その間は他の暖房器具を使うこともなく、ある意味、今時のサステナブルな生活なのかもしれません。新型コロナの感染拡大の影響で、旅行や外出する機会が無くなったことも幸いして、週末は家の敷地から一步も出ないで庭仕事三昧です。おかげさまで、チェーンソーや斧まで買い揃え、木こりのまねごとを楽しんでいます。

### 【資格取得】

ここ数年、資格を取ることにまっています。仕事で第1種衛生管理者の資格を取ったことが始まりです。試験に医学や化学の知識が必要なことから、獣医師の自分に白羽の矢が立ちました。50歳目前での受験勉強に加え、教科書は上下巻にまたがる大容量！仕事も多忙を極めた時期だったので、試験日2週間前からは一心不乱に勉強しました。こんなに真面目に受験勉強したのは獣医師国家試験以来だったかも。

次も仕事関係で、フォークリフトと玉掛けの免許を取得しました。フォークリフトは独特の運転技術になかなか慣れず、本番まで自信が持てませんでした。玉掛けは物理（力点、作用点）や数学（重心の計算）と苦手分野で実技試験は冷や汗ものでした。

続いて、危険物取扱者（乙種4類）を取得しましたが、これも苦手な化学知識が問われるもので、仕方がないので山をかけて丸暗記しました。

最後は狩猟免許（わな猟）です。野生鳥獣による農作物被害が増える中、地域の役に立てればと娘と一緒に取得しました。動物の識別や法令は自信がありましたが、実技試験は合格重視で「くくりわな」ではなく、より簡単な「箱わな」を選択し合格できました。しかし、県内の野生いのししで豚熱感染が確認されたことから、仕事への影響を避けるため狩猟は断念せざるを得ず、当面は資格を生かすことはできなさそうです。

この先は、庭木の手入れに必要な、高所作業車や小型車両系建設機械の資格を取りたいと思っています。

今の職を退職した後は、取得した資格を生かして、ホームセンターやガソリンスタンドの副業をしながら、自然の中で狩猟や趣味の野鳥観察の指導員をすることを夢見ています。

### 【最後に】

気ままで稚拙な文章でお恥ずかしい限りですが、次にバトンタッチする方には、安心してもらえたのではないのでしょうか。それでは、「オールド・ルーキー」として、再び山口県に戻って来られた、下関農林事務所畜産部の西本清仁先生、よろしくお願ひします！

## 新入会員紹介

### はじめまして



はじめまして。この度山口県獣医師会に入会させていただきました二條久保静香です。今年の1月に、光

市の室積で動物病院を開業しました。東京で生まれ、北海道で2年、名古屋で7年間を過ごし、山口大学農学部獣医学科入学を期に山口県へ移住しました。

山口大学では中学校から続けている吹奏楽部に入部し、春夏秋冬朝から晩まで楽器練習に明け暮れていました。夏には吹奏楽コンクールに出場し、2度の全国大会出場を果たしました。

卒業後は、県内の吹奏楽団に入団し、音楽活動を続けてきましたが、近年の新型コロナウイルスの影響で、楽団でのコンクール出場が難しくなり、今年初めて、山口大学OB吹奏楽団の一員として、コンクールに出場することになりました。

今年の自由曲は、八木澤教司作曲「死者の支配する国」—崇高なる光に包まれて—以下楽曲解説より—愛媛県立南宇和高等学校吹奏楽部委嘱作品。タイトルとテーマは顧問の土居俊一先生によるもので、第一場「死」、第二場「死者の目に映るいま」、第三場、「死者へ敬愛」が途切れなく演奏される第一楽章曲になっています。肉親や愛する人の死、その絶望とその現実を理解できない気持ち。楽しく懐かしい日々が崩れ、失ってはじめて気づく、その大切さと感謝の念。そして次第にその気持ちは不安をも招き「今の私は

熊毛支部 二條久保 静 香  
(光アニマルケアクリニック)

こんな生き方で良いのか」「あの人が今の自分を見たら悲しむのではないかと悩み苦しむ。しかし、死者は自分を決して見捨てず見守ってくれていることに気づく。肉親や愛する人との絆はそれほど深いものであるからです—静かな和音から始まり、やがていくつもの楽器が重なって美しいメロディーとなっていくところは、冥福から天に昇っていくところをイメージさせられます。中間部の激しい旋律は、失った寂しさと絶望を彷彿とさせます。そして冒頭のメロディーを軸とした壮大なフィナーレへと移り変わります。私たち小動物臨床家にとって、愛するものに先に旅立たれることは、避けられないことです。これは動物と人間の寿命が異なる点から、しかたがないことだと考えます。しかし、この曲の訴えの通り、亡くなってしまっても、精神的な「愛」のつながりは存在しており、辛いことがあっても生きていけること、死者は見守っていてくれているということを知って教える音楽となっていますので、ぜひ、イメージしながら聞いてみてください。

ともあれ、短い動物たちの命を、少しでも長く、穏やかなものにするために、趣味にばかりかまけていないで、日々学び、精進していきますので、皆様のご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしく願いいたします。

## はじめまして



はじめまして。今年度から、新規採用で中部家畜保健衛生所に配属されました川分敬子（かわわけ けいこ）と申します。

この3月に夫、3歳の息子とともに山口県へ移住してきました。

以前は、大阪市で公衆衛生獣医師として主に食品衛生業務に携わっていましたが、山口県では畜産部に配属ということで、一から勉強し直すことばかりです。息子の幼稚園の送迎のため部分休業を取りつつの業務にいろいろと不安はありましたが、周囲の方々に助けをいただき充実した毎日を過ごすことができている。いつもありがとうございます。一日も早く戦力になれるよう頑張っていきたいと思っています。

私の生まれは福岡県の門司港ですが、父の仕事の関係で千葉、埼玉、福岡、大分と今までいろんな場所に

山口支部 川分敬子

(山口農林水産事務所畜産部)

実家がありました。昨年父が退職し、故郷である山口県に隠居したため、夫婦で転職し、私の両親が住む山口県へ家族で移住することにしました。（転職先を山口で探してくれた京都出身の夫に感謝感謝！！）

山口大学を卒業しました。学生時代は微生物学研究室でマウス白血病ウイルスの研究をしていました。また、吹奏楽部でコントラバスを演奏したり、釣りにはまったり、休講になれば温泉に入りに行ったり山口での6年間を満喫しました。大学4年生の時にタイへ旅行したのがきっかけで、海外旅行に興味を持ち、社会人になってからは毎年どこかの国を旅していました。出産してからは、コロナ渦ということもありしばらく海外旅行はいけない状況ですが、老後の夢は世界一周旅行です（笑）。自然散策やハイキングも好きで、休日は家族で散歩したり、近所の山に登ったりと山口の豊かな自然を楽しんでいます。

こんな私ですが、これから宜しくお願い致します。

## はじめまして



はじめまして。本年4月に北部家畜保健衛生所に新規配属となりました原田幸治です。出身は東京都です。

麻布大学を卒業後、栃木県・神奈川県川崎市・島根県・熊本県において、NOSAIでの家畜共済業務、保健所での食品・環境衛生・動物愛護業務、家畜保健衛生所での畜産振興・家畜防疫業務、食肉衛生検査所でのと畜・食鳥検査業務・試験研究業務などを経て、現在に至ります。地方公務員の獣医師が配属される分野を22年かけて概ね全て経験してきました。また昨年度から、仕事をしながら山口大学大学院共同獣医学研究科に社会人大学院生として在籍しながら試験研究を行っています。

山口県には、高校生時代に山口大学の獣医学科の

長北支部 原田幸治

(萩農林水産事務所畜産部)

入学試験を受けに来たり、島根県庁時代に山口大学にリクルーターとして就職説明会に来たり、県の家畜防疫演習の見学に来たり、昨年の山口大学の大学院への進学と、何かと山口県にご縁を感じるものがあります。勤務先の北部家畜保健衛生所の所管地域である萩市も、島根県庁時代の益田家畜保健衛生所に勤務している際にも何回も訪れたことがある場所でもあり、配属先にもご縁を感じるものがあります。

本年3月まで熊本県庁の食肉衛生検査所でのと畜・食鳥検査を行っていて、農林水産分野から3年ほど離れていたため、家畜保健衛生所での業務の感覚を取り戻すべく、リハビリしながら毎日の業務にあたっています。今後ともよろしくお願いたします。

## 「雷魚の思い出」

長北支部 笠井亨浩

(秋農林水産事務所畜産部)

有ったような無かったような梅雨が終わり、茹だるような暑さが続いておりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。先日、夕涼みに榎野川の河川敷を散策していると大きな鯉の群に混じる一尾の雷魚の姿を確認しました。榎野川水系では数の多い魚らしく、水産上有用な在来の魚を食害してしまう有害な外来種として漁協によって賞金首にもなっているようです。

大きなものでは1m近くにもなり、蛇のような頭と斑紋を持つ肉食魚であり、ヨシやヒシの繁茂する沼に潜むその生態からもこの魚に“怪魚”のイメージを抱く方は少なくないと思います。私も幼少期には「どここの沼に巨大雷魚がいる」といったような種々の（ほぼ眉唾の）雷魚伝説を聞いたのは一回や二回の話では有りませんでした。子供たちだけで探索隊を組織し、夜遅くまで帰らなかったため大変叱られた事もありました。雷魚には少年たちを惹きつける何かがあるようで、調べてみると全国に数多くの巨大雷魚の伝説があるようです。

京都の深泥池に始まり、秋田県の八郎潟も有名ですが、中でも群を抜いて伝説めいているのが愛知県海部郡の釣り人にまことしやかに伝わる巨大雷魚「ビッグヘッド」です。釣り雑誌などでも取り上げられることもあり、「頭だけでもラグビーボール程の大きさがある」とか「推定140cmくらいあるのではないか」と魚だけに尾ひれのついていそうな噂が流布されていたものです。雷魚の仲間は空気呼吸をすることで知られ、そのため表層を漂うことが多いのでその巨大な魚影を目の当たりにする機会が多いのも伝説化しやすい一因だと思います。上にも書いた通り雷魚はヨシが鬱蒼と茂る沼に生息するイメージが強く、この魚を専門に狙う釣り人もそのような環境に足を運んでいるようですが、個人的な所感としては雷魚は沼というよりは川の魚、とりわけ大きな川の河口付近に多く生息しているように感じます。ムツゴロウさんこと畑正憲氏はその数ある著作の中で満州で過ごした幼少期について度々書かれていますが、その中で雷魚釣りに関するものがいくつかあります。その中でも（本来の生息地における）雷魚が大河川で群れて生息しているような描写がみられ、雷魚は本来大きな川に居るようなもので多くの釣り人が抱くような鬱蒼とした沼に潜むようなものではないのかもしれませんが。

私の母校である山口大学の前には、九田川という榎野川をバイパスする小河川が流れています。学生時代に一時期その川の魚の寄生虫を検査していた事があり、鮒を一日一尾釣ることをノルマとしていました。川に足しげく通って判ったのがこの川には多くの雷魚が生息しているという事で、釣りに行ってその姿を見ないことはありませんでした。あるとき

ベトナムから来た人をもてなすのにチャーカーラボン（ベトナムの雷魚鍋）をふるまおうと雷魚を一尾捕獲して食べたことがありました。全長80cm強の雄で、半身は鍋にして美味しく頂いたのですが、残りの半身をどうしようかという話になり、刺身で食べることになりました。ご存知の通り、雷魚の生食は有棘顎口虫の感染リスクを有するとされ、皮膚爬行症や移動性腫瘍等の原因として知られています。畑正憲氏の著作「ムツゴロウの雑食日記」にも雷魚の生食による皮膚爬行症の話が出てきますが、その中でも雷魚の刺身は美味なものであるという記載があり、生食に挑戦してみたのでした。感染リスクを低減するため、マイナス30℃で一度凍らせ、可能な限り薄造りにして一枚一枚を丁寧に実体顕微鏡で検査した“安全な”雷魚の刺身を研究室の学生たちで試食しました。幸いにも顎口虫に感染したものはいませんでしたが、食味のほうは「海の魚が食える環境なら取り立てて食べようと思うものではない」というのが皆の意見でした。味としてはベラの仲間のコブダイが最も近いと思います。この一般でも広く知られる雷魚と寄生虫の話ですが、これは戦後の食糧事情と深い関係があります。現在では寿司という江戸前寿司と言われる握りずしがメインですが、戦前では握りずしはあくまでも関東ローカルのもので、各地で特有のチラシずしや押しずし、箱ずしなどが主に食べられていたそうです。それが大きく変わったのが戦後のコメの流通規制、コメを食用に供する飲食店が厳しく規制されたときに、配給米を寿司と交換する「寿司の委託加工制度」が敷かれたことが握りずしが台頭するきっかけとなったと言われております。戦後の食糧事情、乏しい流通から、新鮮な海の魚を食べられる地域は沿岸部に限られ、その他の地域では鱒や鮒、果ては雷魚やナマズまでもが寿司になったといえます。おそらく、魚体が大きく鯛のような味のする雷魚は喜ばれ、結果として当時多くの感染事例がみられるようになったのではと考えられます。

日本の多くの地域では5月から8月までが雷魚の繁殖期とされています。雷魚はその敵めしい見た目にも似合わず母親が子供を守る魚として知られています。子供たちが独り立ちするまで必死でそれを守る親魚をみると、ほほえましく思う反面、人間の都合で持ち込まれたとはいえ外来種として駆除の対象となっていることを考えると何だか複雑な気持ちになってしまいます。

夕焼けをうつした赤い水面にたたずむ雷魚の魚影をみると、今でも探索隊を組織していたあの頃を思い出します。コロナが落ち着いたら、また実家付近の自然を探索してみようと思っています。

## お知らせ

## 「令和4年福島沖地震及びウクライナ侵攻被災動物救護活動等支援金」について

このことについて、(公社)日本獣医師会から案内がありましたので、お知らせします。趣旨に賛同される方は、本会事務局に連絡して下さるようお願いいたします。

## 公益社団法人 日本獣医師会

## 「令和4年福島沖地震及びウクライナ侵攻被災動物救護活動等支援金」

## 募集要領

## 1 趣 旨

日本獣医師会は、会員地方獣医師会、会員構成獣医師等の支援・協力の下で、令和4年福島沖地震災害及びウクライナ避難民同行飼育動物に対する診療の提供を含む動物の救護活動（以下「動物救護活動」という。）等に従事される方々を支援すること等を目的として「令和4年福島沖地震及びウクライナ侵攻被災動物救護活動等支援金」を募集する。

## 2 支援金の名称

令和4年福島沖地震及びウクライナ侵攻被災動物救護活動等支援金

## 3 募金の期間

令和4年6月から当分の間（募金の募集期間は各動物救護活動等の進捗状況を踏まえ決定する。）。

## 4 支援金の募集と振込み（寄附）先

会員地方獣医師会は、前記1の趣旨を受け、会員構成獣医師からの支援金の募集活動に当たっていただき、取りまとめた支援金（自らの拠出を含む。）を(公社)日本獣医師会次の支援金振込口座に振り込むこととする。

## 5 支援金の使途

前記4により所定の支援金振込口座に入金された支援金は、令和4年福島沖地震及びウクライナ避難民同行飼育動物支援の推進と令和4年福島沖地震被災地の獣医療提供体制の復旧を支援するとともに、募金状況を踏まえて災害時の動物救援活動の強化に充てる。

## 6 税の優遇措置

本会は、内閣総理大臣より「公益社団法人」としての認定を受けているので、本会への寄附金には、特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、所得税（個人）、法人税（法人）の控除が受けられる。また、税額控除に係る証明を取得しているため、個人様の寄附については前記（所得控除）とのいずれか一方を選択することができる。



## お知らせ

**(公社)山口県動物保護管理協会が、動物愛護に係る  
絵画コンクールを実施しています****令和4年度動物愛護に係る絵画コンクール実施要領**

## 1. 趣 旨

動物愛護週間（9月20日～26日）行事の一環として取り組み、動物愛護週間の趣旨浸透を図るとともに作品づくりや、作品の展示、入賞者の表彰機会等をとおして、人と動物とが共生する社会の創造に思いを新たに、動物の習性等を考慮した適正飼養の推進と命ある動物を愛護する気風の招来、生命尊重、友愛及び平和の情操の涵養に資する。

## 2. 主 催

（公社）山口県動物保護管理協会

## 3. 後 援

山口県・（公社）山口県獣医師会

## 4. 募集内容

動物愛護精神の気風を助長する内容（動物との共生）としたテーマでの絵画

## 5. 募集対象（県内在住者）

絵画の部＝幼稚園児（保育園児）の部、小学生の部、中学生の部  
募集規格等

## (1) 規 格

絵画……………画用紙四ツ切り

作品の提出

応募作品には必ず主催者が示した応募票（またはこれに準ずる内容のもの）を作品下部に貼付。{応募票には応募者の住所・氏名・郵便番号・電話番号・所属の学校名または幼稚園（保育園）名・学年・作品のテーマを明記する。}

## (2) 提 出 先

〒754-0891 山口県山口市陶3207番地

公益社団法人 山口県動物保護管理協会（事務局）

TEL (083) 973-8333 FAX (083) 973-8333

## 6. 応募の締切日

令和4年**9月5日（月）**（期日厳守のこと）

## 7. 入賞点数

最優秀賞……………各部ごとに1点（表彰状及び副賞）

優 秀 賞……………各部ごとに3点（     "     ）

佳 作……………各部ごとに5点（     "     ）

※ 応募者全員に参加賞。

## 8. 入賞発表

令和4年**9月中旬**、作品取りまとめの学校または幼稚園等を通じて本人に通知する。

ただし、個人で応募されたものは、本会より直接本人に通知する。

## 9. 表彰状及び賞品の授与等

入賞者については、表彰状及び副賞等を送付する。なお、入賞者以外の者も学校などを通じて**9月中旬以降**に参加賞を交付する。

## 10. 入賞作品の展示

最優秀賞、優秀賞、佳作賞作品については、9月28日（水）から10月26日（水）の間、周南市徳山動物園中央広場売店に展示する。

## 11. 応募作品の取り扱い

応募作品は原則として返還しないこととする。但し引き取りたい場合は、事前に当管理協会に電話連絡して、令和4年**11月4日（金）**までの間に**事務局に受け取り**に来てください。

## お知らせ

## 山口大学共同獣医学部 大動物診療アドバイザー 特定の教育プロジェクトに従事する実務経験者募集

山口大学共同獣医学部から、次のとおり案内がありました

<労働条件>

契約期間：令和4年10月1日～令和5年3月31日（単年度契約）

職 名：アドバイザー

人 数：1名

従事業務内容：(1) 正規職員の補助（家畜（馬・牛等）の診療補助）  
(2) 施設内の設備・機器の管理  
(3) 公用車の運転・学生実習引率補助  
(4) その他雑務

勤務時間：週25時間以内（月曜日～金曜日のうち週4日間程度）

8：30～12：00、13：15～16：00（6時間15分）

休憩時間12：00～13：15（1時間15分）

休 日：土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

休 暇：大学の定めによる

※夏季休暇（お盆時期の5日間を計画年休としています。）

給 与：大学の定めによる（学歴・職務経歴を勘案して決定します。

目安の時給単価は1,400円～1,900円程度となります。）

経 験：獣医師免許、家畜（牛・馬等）の診療経験を有する方を歓迎いたします。

必要資格：自動車普通免許

年 齢：70歳まで

学 歴：大学卒

応募方法：事前に電話連絡の上、履歴書を下記問い合わせ先まで送付ください。

問い合わせ先：

〒753-8515 山口県山口市吉田1677-1 山口大学共同獣医学部総務企画係

TEL 083-933-5943 FAX 083-933-5820 E-mail：ve102@yamaguchi-u.ac.jp

## お知らせ

## 令和4年8月の主な行事

- 8月9日 ・第2回学会運営委員会（県獣会館）
- 8月11日 ・ペットとの同行避難訓練（萩市総合福祉センター）
- 8月23日 ・美祢畜産共進会（美東家畜管理所）
- 8月24日 ・阿武萩和牛共進会（萩市むつみ肉用牛集出荷施設）
- 8月25日 ・山口市畜産共進会和牛共進会（旧徳佐家畜市場）

## 事務局だより

7月7日 ・中国地区獣医師会連合会臨時総会（山口グランドホテル）

7月7日 ・家畜保健衛生業績発表会（中部家畜保健衛生所）

7月13日 ・中国地区獣医師大会・学会会場担当者協議（県獣会館）

7月15日 ・日本獣医師会事務担当者会議（東京都）

7月26日 ・会報編集委員会（県獣会館）

7月26日 ・美祢市共進会担当者協議（県獣会館）

7月28日 ・山口年金事務所協議（県獣会館）

7月6日 7月21日 ・事業推進会議

次回編集委員会 8月23日（火）13：30～

山口県獣医師会会報 第735号 令和4年8月10日（毎月1回発行）

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷

# 第50回中国地区獣医師大会・令和4年度獣医学術中国地区学会 プログラム

## 第1日目 9月3日(土)

[日本産業動物獣医学会（中国地区）]	2階 鳳凰	
受付		11：30～
開会		12：30
地区学会長・日本産業動物獣医学会会長挨拶		12：30～12：40
研究発表		12：40～14：10
[日本獣医公衆衛生学会（中国地区）]	3階 末広	
受付		11：30～
開会		12：30
地区学会長・日本獣医公衆衛生学会会長挨拶		12：30～12：40
研究発表		12：40～14：10
[市民公開講座]	2階 孔雀	14：20～15：30
[特別講演]	3階 末広	15：40～16：10
[第50回中国地区獣医師大会]	2階 鳳凰	16：20～18：00

## 第2日目 9月4日(日)

[日本産業動物獣医学会（中国地区）]	2階 鳳凰	
受付		8：30～
研究発表		9：00～16：00
審査会	3階 パール	16：00～17：00
[日本小動物獣医学会（中国地区）]		
第1会場	2階 孔雀	
受付		8：30～
開会		9：00
地区学会長・日本小動物獣医学術学会会長挨拶		9：00～9：10
研究発表		9：10～16：00
審査会	2階 ルビー	16：00～17：00
第2会場	1階 グレイスホール	
研究発表		9：10～16：00
審査会	2階 ルビー	16：00～17：00
[日本獣医公衆衛生学会（中国地区）]	3階 末広	
受付		8：30～
研究発表		9：00～12：30
審査会	3階 ヒスイ	13：30～14：00
[関連会議] 9月4日(日)		
中国地区獣医師会連合会開業部会	2階 ルビー	11：00～13：00
[医療器具・機械等展示]	2階 フロア	

9月3日(土)12：30～4日(日)16：00